

スクラム

～ 立志・挑戦・感動～

浮羽中学校学校通信

第9号（6月8日発行）
文責 校長 高倉 満

自分の夢や進路実現に向けて～ある天才の生きざまから～

君原健二さん

昭和16年 福岡県生まれ

昭和37年 朝日国際マラソンに出場

以来、11年間に35回もの国際マラソンに出場

その間にあった東京オリンピック8位メキシコオリンピック2位 ミュンヘンオリンピック5位 ポストンやアジア大会などで優勝13回。そして棄権ゼロ。

あの街角まで あの柱まで

あと500メートルだけ・・・

と走る続けるのが ボクのマラソンです。



1年間頑張り続けるのは大変でも

1日ならば、1時間ならば 誰にでもできる。

マラソンは「棄権しろ、棄権しろ、そうすればらくになるぞ」

という誘惑との闘いです。

いつも、あの街まで走ってやめようと本気で思って走る。

そこに来ると、あの電柱まで・・・そこまで来ると あと500mだけ・・・

最後は歩いてでも・・・そんな風に自分に言い聞かせて走り続けてきたんです。

1年間がまんしろ！と言われたら 大変なことでも、1日だけ、1時間だけならしんぼうできる。これと同じですね。

君原さんは、勉強も運動も「にがて」な子で、何に対しても引っ込みじあんで、いつも劣等感を持っていた少年でした。中学校の時に友人から駅伝部に誘われ、イヤだったけどもそれを断る勇気すら持っていなく、ズルズルと何の目的も持たずに走っていた。高3の時、就職を希望していたが、どこも不合格。卒業間近になって、

当時、日本最強の陸上部がある八幡製鉄所（現：新日鉄八幡）にひろわれる。

まわりには、日本を代表するような選手がたくさんいて、とてもたちうちできなかつた。自分をひろってくれた恩をどうしても返したくて「才能も技術もない自分は練習を積み重ねるしかない」と思い、練習が終わっても一人トラックに残り走り続けた。

来る日も来る日も走り続け、初めてチャレンジしたマラソンが、福岡国際マラソン。以後の成績は前に示した通り。

「今しかできないことを 今やることに意味がある」

「努力をしたら 必ずむくわれる。むくわれない努力はない」

「すぐに成果が出なくても 人生の中で いつか出てくる」

天才とたたえられる人が、こんな努力をしていたとは・・・

こんなたたかいをしていたとは、思ってもみませんでした。

自分はやっているだろうか？ これと同じ努力を。 あと10分

あと10歩 あと10回・・・小さなつみかさねを続けていきたい。

今だやる気スイッチが入らずに、ただ何となく、ダラダラと毎日を過ごしている

あなた！今しかない時間を無駄にしない。「自分は無理」「自分はこれくらいで」

「そんなにやっても」「目標もないし」なんて事は言わないで、自分の可能性にチャレンジして欲しい。今日の自分より数ミリでも数センチでも前向きに進む。そんな生き方（行き方）が3年後、5年後の未来を変えたいと思います。頑張る仲間と一緒に頑張って、自分の夢への実現に向けて進みましょう。

■先日、生徒が「なりたい夢がある」と言いました。「何ね」と聞き返すと「ブリーダー」と教えてくれました。次の日、帰りに東門で会いました。手に持っていた本が見えました。犬の種類が学習できる本でした。夢への確かな一歩です。

